

独自のアイデアから産まれた構造の原理・工法で特許出願。
これからの『当たり前』を目指して

NAGATOMO KOMUTEN

有限会社 長友工務店

▶ 事業テーマ

「引き出し体の片持ち支持機構」の特許取得と、
その原理による電動スライド門扉、収納式ウッドデッキの商品化

▶ 活用した支援策

宮崎県産業支援財団

■ 基金活用型宮崎県創造技術研究開発費補助金

REPORT

国富町にある有限会社長友工務店は、自社で設計、施工する一戸建て住宅のオプションとして、電動スライド門扉と床下収納式ウッドデッキを開発、受注の拡大を狙っている。門扉も収納デッキも、「引き出し体片持ち支持機構」という原理・工法によるもの。同社の長友光雄社長が発明し、平成16年2月に特許出願し、10月に公開となった。その商品開発に1年の期間と280万円の費用を要したが、その半額程度は補助金を利用することができた。「知的所有権センターで特許取得の相談をしている時、県産業支援財団の存在を知り伺ったところ、三重野コーディネーターから基金活用型の県創造技術研究開発費補助金の説明を受けました。一所懸命に開発を考えていた私たちにとって、開発の補助金を受けることができて本当にありがたかったです」と長友社長は公的支援の喜びを語る。

完成した門扉は一般的な門扉と大きく異なり、通路部分に車輪やレールがなく地面から15cmほど浮いた形になっている。施工も従来より手間がかからず、リモコン電動で楽に開閉でき、センサーで危険を察知したらすぐに止まる仕組みで安全性も十分だ。重い門扉が支えもなく強度を保っているのは、長友さんの発明原理があるからこそ。「布団を干したり子供を遊ばせたりと用途の広いウッドデッキは、雨ざらしだと腐りやすいし、なにせ和風住宅に合わないんですよ。だから使用しない時は収納して、庭を楽しむ。収納ボックスタイプもあり、非常に便利です」と床下収納タイプの製品についても自信をのぞかせる。

現在は同社が設計、施工する新築住宅にのみオプションで設置するが、将来的には門扉および収納デッキ単品での販売も視野に入れている。「トイレの洗浄機能付便座が浸透するのに20年ほどかかったように、時間をかけてこれからの『当たり前』になる設備だと自負しています。そのためには、さらなる安全性の追究とメンテナンスの単純化を進めなくてはなりません。支援していただいた恩返しに、頑張らなければと思っています」。知識と技術と情熱で、大企業にも引けをとらない住宅設備の革新をもたらしてくれそうだ。



現状の庭を崩さず、必要な時だけ電動で出し入れできる収納式ウッドデッキは、まずは長友さんの自宅で試作した。「部屋が一つ増えたような感覚。妻が大変重宝していますよ」

COMPANY PROFILE

設立	1997年5月
代表者	長友光雄
資本金	500万円
従業員数	4人
売上高	1億2000万円
事業内容	数寄屋造りを中心とした伝統的木造住宅の建築
事業所	〒880-1104 東諸県郡国富町大字田尻576
TEL/FAX	TEL.0985-75-4728 FAX.0985-75-4729
E-Mail	nagatomo@siren.ocn.ne.jp
URL	http://www.montsukuri.co.jp

◆ 代表者メッセージ



代表取締役 長友光雄

技術者である以上、発明や特許取得は長年の夢でした。自分のアイデアを商品化し、事業化の足掛かりを築けたのは、補助制度を知り活用させていただいたからだと思います。情熱をもって真剣に取り組めば、認められるのだと実感しました。東京や県内で数十戸に設置しましたが、評判は上々。これからは門扉やデッキを単品で販売できるように、技術の完成度を高めていきたいと思っています。

◆ 支援決定のポイント



補助制度を利用してアイデアを商品化 伝統と革新で独自の販路を見出す

長友工務店さんは、どっしりと高級感ある伝統的な木造和風住宅造りで定評のある会社。その現状の枠を一步踏み出して、独自のアイデアで研究開発に取り組みました。事業化に結び付くかどうかのリスクを負いながらも、補助金制度を活用して商品化を実現。競争激化の建築業界で生き残る切り札と言えるでしょう。リフォームブームにのった事業展開ができると、販路拡大も確実です。

財団法人 宮崎県産業支援財団 コーディネーター 三重野文明